

地域連携推進機構

Next Urban Lab

成果報告 2023



地域
連携
推進
機構

Next Urban Lab

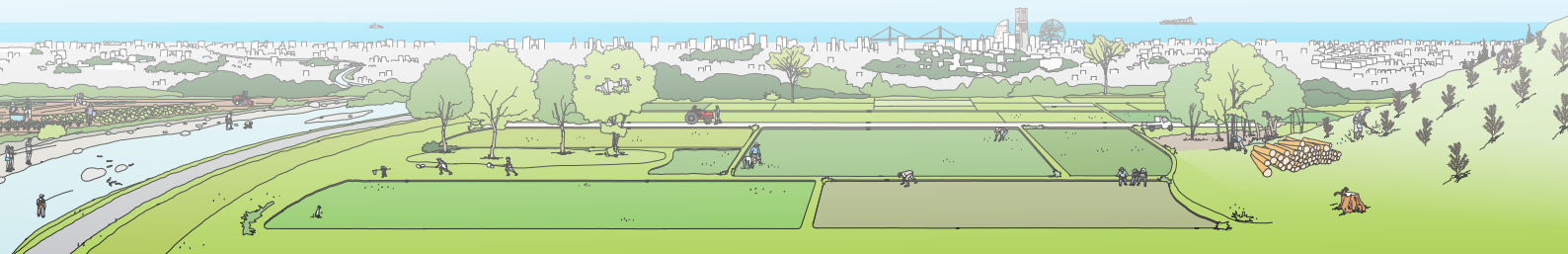
成果報告 2023

CONTENTS

ご挨拶	1
地域連携推進機構の目指す地域戦略	2
Next Urban Lab によせて	3
2023 年度の活動成果の概要	4

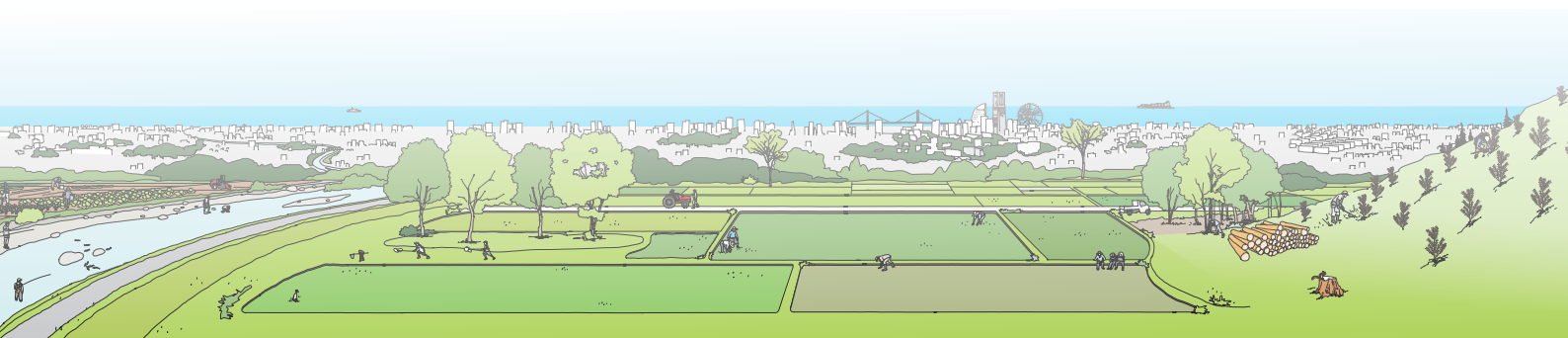
Next Urban Lab ユニット報告

1. エディブルガーデン・エディブルキャンパス	池島 祥文	6
2. 地域自治体と連携した統計データ構築と神奈川・ 横浜の市区町村経済圏分析	居城 琢	8
3. かながわ観光・環境まちづくり	氏川 恵次	10
4. 地域におけるサステナビリティ戦略のための マネジメントと会計	大森 明	12
5. 横浜産学官共創推進ユニット	真鍋 誠司	14
6. 神奈川県民のリーガルサービスの向上のための 地域連携活動	渡邊 拓	16
7. 未来の都市空間を想定した自然共生型の 都市ランドスケープデザイン	佐々木雄大	18





8. 転ばないまちづくりのための技術融合型リビングラボ	島 圭介	20
9. ヨコハマ型リノベーションの実践	江口 亨	22
10. 常盤台まちづくり応援団	大原 一興	24
11. 都市空間研究会	樽沼 範久	26
12. 里地里山×まちづくりラボ（里まちラボ）	佐藤 峰	28
13. ポピュラー文化を活用したまち・地域の 2.5 次元化プロジェクト	須川亜紀子	30
14. 子ども成育環境デザイン	田中 稲子	32
15. 新音響文化研究会	中川 克志	34
16. 郊外居住のクリエイティビティとサステナビリティ	藤岡 泰寛	36
17. プラネタリー・ヘルスユニット	藤掛 洋子	39
18. みなとみらい 21 地区における脱炭素まちづくり	吉田 聡	41
19. 資源循環実践プロジェクト	具 本俊	42
20. イノベーション創出を目指す学生の 地域連携活動のプラットフォーム	為近 恵美	44
21. かながわ県西 森里川海みらいプロジェクト	森田 洋	46



ご挨拶

田中 稲子

地域連携推進機構長

横浜国立大学は、地域との連携を推進するために、2017 年 4 月に地域連携推進機構を設置しました。それまでも、それぞれの学部や大学院、地域実践教育研究センター等が様々な地域との連携事業を行っていましたが、地域からみたときの窓口をより分かりやすくすること、また学内においても活動情報をより効果的に共有していくことなどの課題がありました。本機構には、これらの課題を解決し、「地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援する」という横浜国立大学の地域戦略における 3 つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を様々な地域課題解決に活かしながら大学として積極的に地域連携を推進する役割があります。

本機構の設置後、教員が自ら地域と関わる研究活動の推進と、これらを可視化して広く地域に発信するためのしくみである「ネクスト・アーバン・ラボ」を発足させ、活動を行ってきました。「ネクスト」には、「次世代の」という意味が込められています。複数の学内教員と行政・企業・NPO などが連携して「ユニット」を構成し、多様な課題解決に取り組んでいます。本報告書は、2023 年度の「ユニット」の取り組みをまとめたものです。

2022 年度から第 4 期中期目標・中期計画期間に入り、本学が有する多様な学術知・実践知を駆使して、多角的に社会・地域課題の解決に取り組む体制、「社会・地域課題を発見・解決するプラットフォーム (Y-Plat)」を構築する計画になっています。このプラットフォームでは、多様なステークホルダー（自治体、産業界、学校、市民等）と連携して、様々な社会・地域課題を発見し、本学の教員による分野横断型のチームが中心となり、課題解決策を検討することが構想されています。これらの活動には、「ネクスト・アーバン・ラボ」を発展させる形で生み出されるものもあります。より適切な研究者チームによる「ネクストコラボレーション拠点 (NCC: Next Collaboration Core)」を形成し、社会・地域課題の解決に貢献すべく取り組みを始めております。

このように、第 4 期の計画では、「ネクスト・アーバン・ラボ」の取り組みを一層発展させる計画です。ここに今年度の成果を共有し、多様な視点からご意見を賜ることで、社会・地域課題の解決により一層励む所存です。引き続き皆様のお力添えをお願い申し上げます。

地域連携推進機構の目指す地域戦略

地域連携推進機構は、地域連携活動および地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点となるため、2017年4月に設置されました。地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援するという、横浜国立大学の地域戦略における3つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を地域問題解決へ還元し、大学として積極的に地域連携活動を推進していきます。

1 地域課題に実践的に取り組み、教育・研究成果を地域社会に還元します

地域社会が抱える課題を解決するため、本学の教育力及び研究力を総合的に発揮して実践的に取り組み、その成果を地域に還元します。

2 地域振興の核として諸機関・諸主体と連携した拠点を形成します

課題先進地域横浜・神奈川をフィールドに、自治体等の公的機関や民間企業、市民・NPO等との連携・協力によるオープンイノベーションで地域課題解決能力を高め、地域再生に向けた拠点を形成します。

3 地域に向けた人材育成及び人材還流を推進します

生涯学習及び公開講座などを通して、地域の教育、文化の向上・発展や多様な分野における人材育成及び人材還流に寄与します。

4 地域の産学官連携・産業振興に貢献します

共同研究・受託研究等による産業界や自治体との持続的な連携を重視するとともに、大学の有する知的・人的資源等を活用し、地域産業の振興及び地域社会の発展に寄与します。

5 地域課題への取り組みを通じて国際社会との連携・協力を進め 成果をグローバルに発信します

国際機関、海外の研究機関や大学との共同研究やシンポジウム、多文化共生をめぐる地域の課題解決に向けた連携活動等により、グローバル時代の地域課題解決に取り組み その成果を発信します。

Next Urban Lab によせて

ネクスト・アーバン・ラボは「YNU の強みを出すために、プロジェクト型で高度な教育研究と実践活動を行い、その成果を発信すめたるの仕組み。新しい (next) 都市地域 (urban) のあり方を実践的にモデル提示する」との考えにもとづき 2018 年度に立ち上げられたもので、初年度に 18 の「ユニット」が活動を開始した。「ユニット」の申請・設立の際には目標を定め、毎年入れ替えを行って（継続も可能）、常にフレッシュさを保ってきた。機構の HP には「ネクスト・アーバン・ラボは、ヨコハマ、かながわ地域を主なフィールドとして教育・研究・実践活動を行い、その成果を発信する仕組みです。地域のひとびとや、行政・企業・NPO などと連携して、ヨコハマ、かながわ地域ならではの魅力を活かした地域のナレッジベースの構築をめざしています」と紹介されている。

その後、ネクスト・アーバン・ラボの活動評価指標を設定して全体としての活動量や成果を把握することができるようになり、また、ネクストコラボレーション拠点への進化という新たな道筋も加えて、活動の活性化をはかってきた。

こうして芽生えた新たな取り組みが YNU 独自の「仕組み」としてさらに発展していくことを願っている。

文責・高見澤 実

（地域実践教育研究センター長、都市イノベーション研究院・教授）

報告書の見方

- ①（地域で使える）マニュアル、評価手法、技術等
- ② 地元自治体等への提言（既に行ったもの）
- ③ 研究成果の地域への情報発信
- ④ 地域の中に活動拠点を置き地域活動を行った（〇〇ラボ、等）
- ⑤ 地域実践活動（④のような拠点が無い場合）
- ⑥ 地域ネットワークの構築（〇〇協議会、などの組織への参画やマネジメント等）
- ⑦ その他（具体的に）

2023 年度の活動成果の概要

各ユニットの活動成果を、分類別・エリア別に下表にまとめました。

		Next Urban Lab (令和5年度)																				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
		エディブル	市区町村経済圏分析	かながわ観光・環境	サステナ会計	産学官共創	県民リーガル	都市ランドスケープ	転ばないまち	ヨコハマ型リノベ	常盤台まちづくり	都市空間研究会	里まちらボ	2・5次元	子どもの成育環境	新音響文化研究会	郊外居住	プラネタリー・ヘルス	みなとみらい脱炭素	資源循環実践	イノベ学生地域連携	県西森里川海みらい
エリア	羽沢横浜国大駅周辺	○					○	○	○		○			○		○		○				
	横浜都心		○	○		○	○	○	○	○		○			○				○		○	
	新湘南						○															
	県西			○	○		○						○								○	○
	その他				○		○		○				○		○		○			○	○	
成果	①マニュアル、評価手法、技術等	○	○	○				○						○			○		○			
	② 地元自治体等への提言		○	○		○					○		○	○	○			○			○	
	③ 研究成果の地域への情報発信		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			○	
	④ 地域の中に活動拠点を置き地域活動を行った		○	○		○			○	○	○	○				○		○				
	⑤ 地域実践活動	○											○	○							○	○
	⑥ 地域ネットワークの構築		○	○		○					○		○	○			○	○			○	
	⑦ その他				○				○	○					○				○	○		

成果の分類について

『Next Urban Lab 成果報告 2017-2019』（以下、『17-19 報告』）より、成果を7つの分野に分け、整理しています。

- ①（地域で使える）マニュアル、評価手法技術等
- ② 地元自治体等への提言（既に行ったもの）
- ③ 研究成果の地域への情報発信
- ④ 地域の中に活動拠点を置き地域活動を行った（○○ラボ、等）
- ⑤ 地域実践活動（④のような拠点が無い場合）
- ⑥ 地域ネットワークの構築（○○協議会、などの組織への参画やマネジメント等）
- ⑦ その他（具体的に）

活動エリアについて

2022 年度から、第 4 期の新たな 6 年間の中期目標・中期計画期間に入りました。「Next Urban Lab」を「ネクストコラボレーション拠点（NCC）」へと進化させるべく、「羽沢横浜国大駅周辺」「横浜都心」「新湘南」「県西」の4つの地域を重点エリアとしています。

令和5年度 地域連携推進機構「Next Urban Lab」ユニット成果概要

1	エディブルガーデン・エディブルキャンパス	池島 祥文
2	地域自治体と連携した統計データ構築と神奈川・横浜の市区町村経済圏分析	居城 琢
3	かながわ観光・環境まちづくり	氏川 恵次
4	地域におけるサステナビリティ戦略のためのマネジメントと会計	大森 明
5	横浜産学官共創推進ユニット	真鍋 誠司
6	神奈川県民のリーガルサービスの向上のための地域連携活動	渡邊 拓
7	未来の都市空間を想定した自然共生型の都市ランドスケープデザイン	佐々木雄大
8	転ばないまちづくりのための技術融合型リビングラボ	島 圭介
9	ヨコハマ型リノベーションの実践	江口 亨
10	常盤台まちづくり応援団	大原 一興
11	都市空間研究会	樽沼 範久
12	里地里山×まちづくりラボ（里まちラボ）	佐藤 峰
13	ポピュラー文化を活用したまち・地域の2.5次元化プロジェクト	須川亜紀子
14	子ども成育環境デザイン	田中 稲子
15	新音響文化研究会	中川 克志
16	郊外居住のクリエイティビティとサステナビリティ	藤岡 泰寛
17	プラネタリー・ヘルスユニット	藤掛 洋子
18	みなとみらい21地区における脱炭素まちづくり	吉田 聡
19	資源循環実践プロジェクト	具 本俊
20	イノベーション創出を目指す学生の地域連携活動のプラットフォーム	為近 恵美
21	かながわ県西 森里川海みらいプロジェクト	森田 洋

UNIT
1

エディブルガーデン・エディブルキャンパス

事業の総括責任者 ● 池島 祥文 国際社会科学研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 鏡味麻衣子 環境情報研究院
- 南 俊允 都市イノベーション研究院
- 屋脊下 亮 大成建設技術センター
- 渡邊 敬太 大成建設技術センター
- 有吉 亮 Localist
- 西岡 隆暢 Localist

1 令和5年度の活動内容

R5はおもに大学正門横にあるスペース（通称：マエニワ）における花壇整備と経済学部横にあるスペース（通称：エコニワ）での開墾・植栽を進めた。また、年度後半には、エディブル概念を活用した地域と大学との架け橋づくりの一環として、羽沢横浜国大駅から本学までの通学路に植木ポットを設置するエディブルウェイ計画を検討しはじめた。今年度は、設置するポットの選定・準備にとどまっているが、地域側とのコンタクトに着手しはじめている。



2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

マエニワでは緑化活動を実施し、大学内外の方に、季節の彩りを提供している。エコニワでは、周辺のテーブルで休憩する学生が増え、新たな学内スポットになりつつある。

羽沢横浜国大駅から本学への通学路を植栽で示すエディブルウェイのアイデアが実現すると、ルートを示すサイン設置と周辺地域との協力関係をともに醸成することができるため、その成否に期待がかかる。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

●大成建設技術センター

UNIT
2

地域自治体と連携した統計データ構築と 神奈川・横浜の市区町村経済圏分析

事業の総括責任者 ● 居城 琢 国際社会科学研究院

事業の分担者・
学外協力者 ● シュレスタ・ナゲンドラ 国際社会科学研究院

1 令和5年度の活動内容

本プロジェクトの目的は、神奈川県を対象とし、各地域の特徴を浮き彫りにするデータを作成と地域経済分析を行うことにある。本プロジェクトで、分析を進めるツールとして地域産業連関表を用いる。1年間にわたって、内外の研究者、学生を招き横浜産業連関研究会を下記のように開催した。

<https://www.economics.ynu.ac.jp/hus/econ/29934/>。特に6月23日についてNext Urban Lab研究会として「東海オンエアの聖地巡礼による愛知県岡崎市へ経済波及効果」「障害者が地域に及ぼす経済的影響」という2報告を行った。また、連携先である神奈川県統計センターに学部学生が訪問し、研究成果を報告した。

<https://www.econ.ynu.ac.jp/hus/econ/31077/> その成果は左記にて広報している。

また、横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整課と連携し、山下ふ頭再開発に係る経済効果を研究した。その成果は横浜市市役所での研究発表会 <https://www.econ.ynu.ac.jp/hus/econ/30926/> にて公表しつつ、成果をまとめている。その成果は、2月13日の横浜市での最終報告会で発表する予定である。この研究成果は、横浜市港湾局のHPにて右記のように公表している。<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/yokohamako/kkihon/keikaku/yamashita/joi/kigyodaigaku.html#57855> また、文化産業についての計測のため、文化GDPを試作し、京都において適用し、論文化した。(<https://journalofeconomicstructures.springeropen.com/articles/10.1186/s40008-023-00321-y>) 次年度以降、横浜市において同様な文化GDPを計測していく予定である

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

A. 活動がもたらした地域への貢献

自治体における統計業務は、マンパワー的にもコスト的にも厳しい状況にある。本 Lab では、長年にわたり神奈川県統計センターと連携し、神奈川県の産業連関表を使った分析を学生が行い、神奈川県統計センターで発表することにより、自治体作成の統計を利用することに加え、お互いに研究交流を進め、強固な関係を構築してきた。横浜市での政策課題について、学生参加型で研究を行い、横浜市の政策課題について大きな知見を提供した。また横浜市のHPにて公表することにより本学の地域研究について大きなインパクトを与えた。

B. 本学の研究・教育への貢献

神奈川県のデータ、作成方法について、本 Lab が関わっていくことにより、本学の神奈川県における地域研究は向上した。

学生が自治体の業務について生に触れる機会を持つことで、キャリア選択における一つの選択肢を提供している。また、学生による研究を学外の専門家の前、県庁、市役所の中で発表、議論することで学生の研究水準の向上が見られた。

3 今後の展望

学生の研究発表会、訪問という研究サイクルを、コロナ後の対面可の状況を踏まえてさらに回していくこと

大学院生、学部生の自治体を踏まえた共同研究をさらに推進し、本学の教育、研究水準をさらに向上させる

4 ホームページアドレス等

なし

5 主要連携先

- 神奈川県統計センター、横浜市港湾局

かながわ観光・環境まちづくり

事業の総括責任者 ● 氏川 恵次 国際社会科学研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 大村 恵利 教育学部
- 張 馨元 国際社会科学研究院
- 加藤 郁夫 株式会社国際開発センター

1 令和5年度の活動内容

本ユニットは、事業の総括責任者がこれまで実施してきた地域課題実習である「かながわニューツーリズム」等での活動を敷衍して、観光を入口とした、各種のまちづくりにかんする取り組みを推進することを目的として、2017年度に発足した。従来主に、横浜市・県西地域といった日本における有数の交流人口を有する地域を対象にしてきた。横浜市では横浜市温暖化対策統括本部・横浜市地球温暖化対策推進協議会、各種企業（JTBグループ、相鉄ホールディングス、日産自動車等）と連携してきた。また豊かな自然を有する県西地域で小田原・箱根商工会議所、かながわ西コンベンションビューロー、県西地域の各市町と連携を進めてきた。

横浜市、県西地域の次世代交通（新型電動自転車および小型電気自動車）の展開にあたって、日産自動車、相鉄ホールディングス等の企業とも連携を進めてきた。これらによって、当該地域での課題である次世代交通の検証、本学としての提案事業等も推進してきた。さらに横浜市、県西地域等での次世代エネルギー、省エネ等の導入を通じての、観光を含む経済社会および環境面の各種調査も鋭意推進中である。また、上記の関係を活かして、2018年度から神奈川県政策提案制度での森林による観光の効果の検証と連携をしてきた。

令和5年度は、横浜市、県西地域等と連携しつつ、自然資源を活用したツーリズムを通じてのまちづくりと地域連携を推進してきた。とくに県西地域のまちづくりにあたっては、脱炭素と関連して関係者と共同で価値の創造を試みた。また横浜市温暖化対策統括本部・横浜市地球温暖化対策推進協議会、横浜市内の関連企業・地元商店街・市民等と連携して行うものとしては、関内で進められているエコタウンの具体化があげられる。域内での脱炭素化・緑化と学術・文化の拠点化を進めながら、関連団体と複数の助成金の申請を行った。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

県西地域での自然を活かしたまちづくりについて、各ステークホルダーと連携して南足柄市で提言を行った。

横浜市及び関連団体と連携した環境課題解決事業において、学生を含む研究成果の地域への発信を行った。

外部と連携しつつ、主として県西地域での自然を活かした観光の実装のためのネットワークの構築を行った。

4 ホームページアドレス等

なし

5 主要連携先

- 横浜市温暖化対策統括本部
- 横浜市地球温暖化対策推進協議会
- 市内企業
- 小田原市
- 南足柄市

UNIT
4

地域におけるサステナビリティ 戦略のためのマネジメントと会計

事業の総括責任者 ● 大森 明 国際社会科学研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 氏川 恵次 国際社会科学研究院
- 石田 満恵 国際社会科学研究院
- 曹 勁 国際社会科学研究院
- 加藤 郁夫 株式会社国際開発センター
- 工藤 悟志 常磐大学

1 令和5年度の活動内容

昨年度、サステナビリティマネジメントとサステナビリティ会計が、地域における社会課題解決に向けてどのように活用できるかということ、SDGs 先進自治体である小田原市を中心に調査した。その際に、具体的な事業の一つとして「小田原市SDGs体感事業(おだちゃん)」の紹介があった。今年度は、「おだちゃん」のプロジェクトのプラットフォームを提供している株式会社カヤックに焦点をあて、地域におけるSDGsの取り組みへの民間企業としてのアライアンスのあり方、地域への貢献をどのように評価するか、という視点からの調査を行った。同社では「ちいき資本主義」事業という形で自治体や地域と協働してSDGs達成に向けたサービスの提供を行っている。地域におけるSDGsの評価には、関与する自治体、企業、市民など多様なステークホルダーを包含した取り組みであるため多角的な評価が必要となる。その企業側の評価モデルを構築するために同社に対する複数のインタビューを実施し、地域のSDGs評価モデルの構築に向けた研究を行った。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒

※ その他として地域へのSDGsビジネスを展開している企業に焦点を当てた。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- 株式会社カヤック
- 小田原市

UNIT
5

横浜産学官共創推進ユニット

事業の総括責任者 ● 真鍋 誠司 国際社会科学研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 丸尾 昭二 工学研究院
- 湯沢 雅人 地域連携推進機構成長戦略教育研究センター
- 萩原 恒夫 ネクストラボラトリー
- 兼平 靖夫 ダッソーシステムズ株式会社

1 令和5年度の活動内容

今年度は、星川～天王町エリアの相鉄高架下施設「星天 qlay」にサテライトオフィスを設置し、地域コミュニティに参加した。具体的には、星天 qlay において本学の知識・技術（台風科学技術研究センターの取り組み）を発信したり、本学学生団体（CurioSeeds）と協力してワークショップを行った。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

②横浜市政策局（よこはま共創コンソーシアム）のイベントで「横浜市内の共創を推進するために大学が果たす役割を考える」というテーマで提言を行った。

③台風科学技術研究センターの取り組みについて、動画を作成し、サテライトオフィスのデジタルサイネージで情報を発信した。

④星天 qlay に「共創革新ダイナミクス研究ユニット」サテライトオフィスを設置し、「Next Urban Lab」の活動も併せて行っている。

⑥星天 qlay ギャザリングに参加した。

<関連資料>

NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ

【ニュース】協働機能と共創機能の一体化を目指した実証実験の開始と、事業契約の締結について <https://www.city.yokohama.lg.jp/business/kyoso/kyosofront/kyodokyoso.html>

3 | ホームページアドレス等

<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000122.html>

4 | 主要連携先

- 横浜未来機構
- 横浜市経済局
- 横浜市政策局
- (一社) みなとみらい 21
- 相鉄アーバンクリエイツ
- 相鉄ビルマネジメント
- ルートデザイン合同会社 (PILE)
- YADOKARI 株式会社



神奈川県民のリーガルサービスの向上のための地域連携活動

事業の総括責任者

● 渡邊 拓 国際社会科学研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 石崎由希子 国際社会科学研究院
- 梶島 洋美 国際社会科学研究院
- 笹岡 愛美 国際社会科学研究院
- 小池 治 横浜国立大学名誉教授
- 余 乾生 令和4年度連携研究員
- 櫻井 幸雄 国際社会学府博士課程後期修了
- 関 ふ佐子 神奈川大学教授
- 田島祐規子 元本学国際戦略推進機構（英語教育）

1 令和5年度の活動内容

2023年9月8日と2023年10月4日の2回にわたり、本学国際社会科学研究所の濱口太久未教授により、「最新・著作権事情の解説①～応用美術の著作権保護～」・「最新・著作権事情の解説②～著作権制度改正の動向保護～」というテーマで、本学と神奈川県弁護士会との共催研修会をオンラインで実施し、好評であった。

2023年7月15日（土）（10：00～12：00）に、本ユニットの令和5年度第1回オンラインセミナーとして、「あなたはお任せ派ですか、事前計画派ですか？—高齢者の財産管理と医療ケアをめぐる議論—」というテーマで、本学の国際経済法学専攻博士後期課程を修了（博士（法学））され、本年度の本ユニットの連携研究員である櫻井幸男氏にご講演をいただいた。

2023年11月12日（日）（9：30～12：10）に、本ユニットの第2回オンラインセミナーとして、「医療の意思決定支援～症高齢者に対する事前ケア計画（ACP）」というテーマで、国立がんセンター東病院精神腫瘍科長・先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野長の小川朝生氏にご講演いただいた。

2024年1月21日（日）（9：30～12：00）に、本ユニットの第3回オンラインセミナーとして、「日本における意思決定支援の現状」というテーマで、筑波大学人間系助教の森地徹氏にご講演をいただいた。

いずれのセミナーも参加者を交えて活発な議論があり大変盛況であった。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

4 ホームページアドレス等

<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000125.html>

5 主要連携先

- 神奈川県弁護士会 研修委員会

UNIT
7

未来の都市空間を想定した自然共生型の都市ランドスケープデザイン

事業の総括責任者 ● 佐々木雄大 環境情報研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 小池 文人 環境情報研究院
- 鏡味麻衣子 環境情報研究院
- 稲垣 景子 都市イノベーション研究院
- 遠藤 聡 環境情報研究院
- 松行美帆子 都市イノベーション研究院
- 奥山 尚子 環境情報研究院
- 飯田 晶子 東京大学工学系研究科
- 田中 貴宏 広島大学先進理工系科学研究科

1 令和5年度の活動内容

近い将来、東京ー横浜のような大都市でも、人口の減少が顕著になる「都市の縮退（urban shrinkage）」が進むことが予想される。都市の縮退に伴って、既存市街地内の未利用地の増加、都市における人と自然の関係性の変化、都市空間の再編に伴う防災のあり方の変容などの問題が顕著になることが想定され、都市ランドスケープデザインに関わる発想の転換や新たなイノベーションが求められている。

本ユニットでは、横浜市全域を対象に、未来の都市空間のあり方について、教育研究活動を行っている。令和5年度は、外部講師を招聘して公開研究会を3回開催し、関連研究を2編発表した。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

都市街路空間は概して、舗装された路面が目立つため、街路の植え込みや街路樹下部などの一部を除き、自発植生（植えられた植物ではなく、自発的に生育する植物）はあまり存在しないと認識されがちです。自発植生が仮に存在したとしても、人や車の移動に伴う種子散布や定着環境など、人為影響の受けやすさから、そのほとんどが外来植物である可能性が予想されます。この

研究では、この一見忘れられがちな都市の街路空間において、街路の植え込みや街路樹下部のような土壌に覆われた基質表面だけでなく、アスファルトの割れ目、舗装された歩道、街路と建造物敷地を隔てる壁面など人工的な基質表面にも着目し、自発植生の多様性がどのように分布するのかを検証しました。その結果、街路空間のさまざまなハビタットを通して、外来種は必ずしも優占しないこと、また、ハビタットに特有に分布する自発的な植物種が数多く存在することが明らかとなりました。以上の知見は、都市の街路空間もさまざまな自発植生を支えること、街路空間において多様なハビタットを創成することによって、街路を行き交う人間の目に触れる自発植生の多様性を担保できる可能性を示唆しています。

当ユニットに関わる研究・教育活動の一環として、当ユニットの教員の指導学生あるいはポスドクが主著とする国際学術論文が2報公表（Heikkinen et al. 2023, Global Ecology and Conservation; Iwachido et al. 2023, Urban Forestry and Urban Greening）された。

3 | ホームページアドレス等

<http://www.sasa-lab.ynu.ac.jp/pukiwiki-151/?Next+Urban+Lab>

<https://www.ynu.ac.jp/hus/koho/30655/detail.html>

4 | 主要連携先

- 横浜市財政局
- 環境創造局

UNIT
8

転ばないまちづくりのための 技術融合型リビングラボ

事業の総括責任者

● 島 圭介 環境情報研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 大沼 雅也 国際社会科学研究院
- 下野 誠通 工学研究院
- 福田 淳二 工学研究院
- 泉 真由子 教育学研究科
- 藤岡 泰寛 都市イノベーション研究院
- 田中 稲子 都市イノベーション研究院
- 小林 知恵 総合学術高等研究院
- 長谷川由理 株式会社 風の谷プロジェクト
- 中島 靖 ユニコムプラザさがみはら
- 学外連携先 神奈川県立産業技術総合研究所
- 学外連携先 神奈川県 ヘルスケアニューフロンティア

1 令和5年度の活動内容

本ユニットは、高齢者の転倒防止技術の社会実装を目指して発足し、様々な対話的試行を通して、大学および地域の多様なステークホルダーによる相互理解を図りながら技術開発の方向性や社会への導入の方法を模索する活動を行っている。これによって、多様性が求められる現代社会において、技術分野・社会分野における転倒防止技術が融合された未来志向の「転ばない街づくり」を目指す。具体的に扱う技術は、ウェアラブル機器を用いたヒト機能評価技術（転倒・骨折リスク測定法）、ヒト機能拡張・支援技術（歩行支援装置）、転倒防止に結びつく住環境改善技術という高齢者の転倒予防・防止に関わる三つの技術であり、これに基づいた地域への情報発信や、意識改革、課題の抽出とフィードバックの活動を推進している。

上記の転倒防止技術の社会実装のあり方を検討するため本学または近隣地域のリビングラボを活用するが、このリビングラボにおける近隣住民を含む多様なステークホルダーと本ユニットメンバーとの対話が重なっていくことで、超高齢社会に対する備えや住民の自覚が促されることが期待できる。これによって、丘陵地帯が多く、坂道や階段が点在し転送リスクの高い横浜の住宅地における超高齢社会における街づくりへの貢献が期待できる。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒

③研究成果の地域への情報発信および④地域活動：今年度は横浜都心・羽沢エリアを含む県内各地域でウェアラブル機器を用いたヒト機能評価技術（転倒・骨折リスク測定法）に関する情報発信活動や技術利用に関する市民対話活動を行なった。横浜都心エリアでは、地域課題実習科目「転倒しない街共創ラボ:こらぼ」プロジェクトの一環として、YOXO（横浜未来機構）フェスティバル（開催地：MM テラス）にヒト機能評価技術の体験ブースを出展した。羽沢エリアでは、常盤台地域ケアプラザと連携し、当館利用者（周辺住民）を対象として転倒リスク測定法の体験および機能改善プログラムをセットとしたリビングラボを2回開催した。1回目では転倒リスク測定技術に関する説明・体験および計測結果と普段の生活リズムに基づいた改善体操の提案を行い、2回目では改めての計測と改善体操に対するディスカッションを実施した。こうした対話的手法を用いた継続的な取り組みは、対象技術の利用について市民の視点に立った課題抽出や問題の可視化に資するものである。その他のエリアでは、左近山地域ケアプラザ（横浜市旭区）において、地域の保健活動推進員・民生委員の方々を対象とする転倒リスク測定法の体験・対話会（リビングラボ）を開催し、高齢者を支援する立場から、対象技術の利用フィールドについて地域の課題を踏まえながら意見を聴取できた。この取り組みを契機として、年度内に近隣地域（旭区市沢地区）でも同様のリビングラボを開催予定である。また、ユニコムプラザさがみはら（相模原市）では「第10回まちづくりフェスタ交流展示会」に出展し、転倒リスク測定法や本拠点の取り組みについて情報発信を行ったほか、3月には近隣住民対象としたリビングラボの開催を予定している。

⑦その他の活動：本ユニットのリビングラボの効果的な実施に向けた方法論の構築が期待されていることから、ユニットメンバーによる共同研究にも取り組んだ。具体的には、大沼（経営学）・小林（倫理学・科学技術社会論）は、質問紙調査を通じて、科学技術のELSI（倫理的・法的・社会的課題）に関する市民対話への関与意向を方向づける要因の探索研究を行うとともに、対話型ワークショップの設計に関する議論を構築し、学術誌『科学技術コミュニケーション』に論文投稿した。

< 関連資料 >

- ・YOXO Festa 出展情報：<https://yoxo-o.jp/yoxofestival/exhibit/?ve%5B%5D=g#list>
- ・ユニコムプラザさがみはらまちづくりモデル事業：<https://unicom-plaza.jp/model>

4 | ホームページアドレス等

BSD 拠点：<http://bsd.ynu.ac.jp/>

5 | 主要連携先

●ユニコムプラザさがみはら ●常盤台地域ケアプラザ ●左近山地域ケアプラザ



ヨコハマ型リノベーションの実践

事業の総括責任者 ● 江口 亨 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 大原 一興 都市イノベーション研究院
- 藤岡 泰寛 都市イノベーション研究院
- 加藤 功甫 Connection of the Children

1 令和5年度の活動内容

活動の目的は、本学周辺地域にある団体や不動産オーナーと連携して既存の建物を活用（以下、リノベーション）し、その地域の価値を上げることである。また、この実践的な教育研究活動を通じ、地域課題を発見・解決できる人材を育成するとともに、転換期にある建築関係の産業のあり方に関する学術的な知見を蓄積する。2017年に開始した地域課題実習で対象としていた「casaco」のプロジェクトをもとに、2018年度からはNNULとしての活動を開始した。2023年度はコロナ禍で制限されていた活動を徐々に広げ、学生が主体として行っているcasacoでのイベント運営などを通じて、地域に根ざした活動を模索した。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

【①～③は本年度の活動について、④～⑥は継続プロジェクトの場合に進展があれば、⑦は①～⑥でない場合に、それぞれ☑します】

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

【③】 学生の活動を紹介する機会として、学外協力者が発行している「野毛山新聞」というエリアマガジンに学生が毎月連載を行い、NNULの活動を地域内の約400世帯に向けた発信を続けている。

【④】 拠点であるcasacoに学生がいることを好意的に感じている住民が増えており、学生の存在が地域交流のハブになっている。学生が毎年企画・運営している「キャンドルナイト」という定期イベントだけでなく、今年度は地域住民を先生にした和菓子作り体験教室など

の不定期イベントを複数開催し、交流を促している。

- 【⑦】 casaco は賃貸住宅であり、主に海外からの留学生を受け入れている。その賃貸住宅のゴミ捨てや住民とのコミュニケーションなどのマネジメントの一部を学生が担っており、建築の維持管理と国際交流の経験を積んでいる。また、casaco は古い木造の賃貸住宅を改修したものだが、住みながら建物に手を入れ続けており、空間デザインのノウハウを蓄積している。さらに、本活動に参加する建築学科の学生が地域住民から要望されて、「出張DIY」としてその方のご自宅のウッドデッキ製作を手伝った。このように地域に根ざした活動を通じて、学生が座学で学んだことなどをまちづくりの実践の場で活かし、試行錯誤をする機会を得ている。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

なし

UNIT
10

常盤台まちづくり応援団

事業の総括責任者 ● 大原 一興 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 藤岡 泰寛 都市イノベーション研究院
- 古城 高之 常盤台地域ケアプラザ所長
- 石川 源七 常盤台連合町内会長

1 令和5年度の活動内容

2008年から始めたワークショップは、今年2月で59回目となった。令和4年度は公式なワークショップを6回開催し、一昨年の一休みできるベンチ制作から発展し、多世代交流をはかるために、子どもたちのまちづくりへの参加を募り、地域の各所であそべる場所としての「遊べるベンチ」を3カ所制作し設置した。一方で、羽沢から常盤台にかけての地域で、このワークショップを契機に構成された住民組織である「羽沢横浜国大まちづくり協議会」と一体となって、まちづくりプラン作り（令和7年度策定を目指して）に参加している。まちづくり協議会は月に1回定例会を開催し、これには積極的に参画しており、まちづくりのための様々な実態調査と課題抽出、提案をおこなってきている。まちづくりプランの素案を策定し、それに対する住民意向アンケートを作成、配布したところである。従来進めてきたまちのサイン版整備もデザインや内容の具体化を進めている。

遊べるイス [今年度作成したもの 2024年2月時点の状況]



上星川小学校

2023/09

設置

上星川小学校前



すみよしの遊び場

2023/09

設置

すみよしの遊び場内



国大野外音楽堂

2023/09

設置

野外音楽堂内

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- 常盤台連合町内会
- 羽沢（南部、第一、星ヶ丘）町会
- 常盤台地域ケアプラザ・コミュニティハウス
- 常盤台小
- 上星川小
- 保土ヶ谷中
- 横浜市
- 保土ヶ谷区
- 神奈川区

UNIT
11

都市空間研究会

事業の総括責任者 ● 樽沼 範久 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
学外協力者

- ファビアン・カルパントラ 都市イノベーション研究院
- 齊藤 麻人 都市イノベーション研究院
- 彦江 智弘 都市イノベーション研究院
- 三浦 倫平 都市イノベーション研究院
- 守田 正志 都市イノベーション研究院

1 令和5年度の活動内容

本年度はこれまでの理論的研究のほか地域課題の発掘と解決にも重心を置き、時事的な関心も必要性も高い「地域社会の防衛／防災」を主題にした研究調査と情報発信を行った。成果の一端は令和5年9月17日、18日に本学を会場に開催された防災 KOKUDAI に於いて、豊穰な社会研究センターつながり方研究所、及び防災研究拠点哲学研究ユニットと一体になり、朗読劇と討論を組み合わせた革新的な3つのセッション（1：「ここは天国にも地獄にもなりうる」：厄災のなかのパラダイスに向けて、2：豊穰な社会へ、「日本沈没」を超えて、3：豊穰な未来社会へ、災害を媒介に）で発信した。また、「Next Urban Lab」の予算から支出はしなかったが、平成6年1月26日には福島大学地域未来デザインセンターを訪問して将来の連携に向けた話し合いを実現したメンバーもいる。こうした本年度の蓄積の基盤に立ち、都市空間研究会は来年度以後の飛躍に向けた研究会活動を持続する現在である。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

- ・ 防災 KOKUDAI（令和5年9月17日、18日）：豊穰な社会研究センターつながり方研究所、及び防災研究拠点哲学研究ユニットと一体となり、朗読劇と討論を組み合わせた3つのセッションで「地域社会の防衛／防災」を主題にした研究調査を発信 <<https://rcdm.ynu.ac.jp/>>

g5-2310-1/>

4 | ホームページアドレス等

HP 作成検討中。

5 | 主要連携先

- 豊穰な社会研究センターつながり方研究所
- 防災研究拠点哲学研究ユニット；学外連携先：再検討中

UNIT
12

里地里山×まちづくりラボ (里まちラボ)

事業の総括責任者 ● 佐藤 峰 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 氏川 恵次 国際社会科学研究院
- 小林 誉明 国際社会科学研究院
- 志村 真紀 地域連携推進機構地域実践教育研究センター
- 小池 研二 教育学部
- 原口 健一 教育学部
- 倉田 薫子 教育学部
- 小池 治 横浜国立大学名誉教授
- 松村 正治 横浜里山研究所理事長
- 吉武美保子 新治里山「わ」を広げる会事務局長

1 令和5年度の活動内容

神奈川県および近隣地域においては、里地里山活動について、人材の課題、価値の共有、インセンティブ不足など様々な課題を抱えている。本ユニットでは、環境・教育・保健に比し、経済・景観・コミュニティ形成分野、つまり「まちづくり」での里地里山の活用事例は少ないことに着目、社会科学・人文科学の領域から、「郊外地域の里地里山の積極的・持続的に活用」の諸条件とアプローチを探るべく、神奈川県や近隣の先駆的な事例と成立要件の分析、知見の記録化、対処への提言、国内外への発信、当事者同士の学び合いの促進を展開していくことを目的に結成されている。今年度は神奈川県県西センターの外部資金「地域活性化のための提案型事業（あなたの“アイデア×アクション”で、地域の未来を創る！）」により、県西エリアでの関係人口創出の試みを中心に活動を展開した。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐
その他	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

A. 活動がもたらした地域への貢献

- ②：神奈川県里山里山保全協議会委員としての政策提言
- ③：里山×関係人口フォーラムの開催（関係人口に関する調査結果の共有など）
- ⑤・⑥：「地域活性化のための提案型事業」を通じた県西エリア（南足柄市、小田原市）の地域拠点との協働による関係人口創出事業の実施

B. 本学の研究・教育への貢献

本ユニットでの活動は、本学が地域実践教育研究会センターで展開してきた神奈川県との政策調査を継承・発展すること、およびそれぞれの分野での学生を同行した活動は研究指導につながっている。

今年度は、地域課題実習において、里山コミュニティデザインPJ（仮称）を立ち上げ連携を図った。本学の里山里山資源の持続可能な利活用という足元から広がる地域への貢献を引き続き模索したい。また、県西を中心とした連携団体と協議し、有償ボランティアのモデルを確立するなど、地域課題への対応策の具体的提案を展開したい。

3 | ホームページアドレス等

<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000127.html>

4 | 主要連携先

- 付属横浜中
- 附属特別支援学校
- 小田原市
- 南足柄市
- あしがら森の会議
- 小田原かなごてファーム
- 横浜里山研究所

UNIT
13

ポピュラー文化を利用したまち・地域の2.5次元化プロジェクト

事業の総括責任者

● 須川亜紀子 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
学外協力者

● 三浦 倫平 都市イノベーション研究院
● 辻 大和 都市イノベーション研究院
● 平野 恵子 都市イノベーション研究院
● 原 智弘 帝京大学外国語学部

1 令和5年度の活動内容

本プロジェクトの目的は、2019年度に始動したNULの「ポピュラー文化を活用した羽沢横国大駅・大学間通学路の2.5次元化プロジェクト」の継続プロジェクトとして、ポピュラー文化を利用し、横国大周辺羽沢地区を中心とする街の歴史を基礎とした地域の文化資源の「ものがたり」を可視化し、コンテンツ化していくことで、地域の魅力を再発見する仕組みや仕掛けを促す活動を行うことである。

2023年度に行った活動は、以下の通りである。

- ① 都市科学部都市社会共生学科の須川スタジオ主導で、「ヨココクコウサ展」という展示と展示を楽しく見させるためのゲームを都市104で行い、学外も含め100名以上の参加者があった。羽沢、保土ヶ谷、上星川地区の方々に地域の歴史や横国大の印象や思い出などを聞き取り調査し、その結果と歴史の調査からものがたり化をして展示した。
- ② 羽沢、保土ヶ谷、上星川地区のものがたりについて掘り起こすため、3名にインタビュー調査を行った。調査結果と分析は、研究ノートとして『常盤台人間文化叢論10』に掲載する。(2024年3月発行予定)。
- ③ 常盤台地区のものがたりについて、常盤台地区社会福祉協議会、常盤台地区連合町内会から数名と会合の場を持ち、意見交換を行った。今後の連携についても話し合った。
- ④ 神奈川県湯河原町で行われていたアニメ『鬼滅の刃』とのコラボ企画音声ARロケーションでめぐる「湯河原 鬼



滅の刃 湯めぐりの旅」に参加し、音声 AR とキャラクター、物語、地域の紹介について学んだ。若い世代にとって、音声 AR アプリは非常に身近であり、それまでのスタンプラリーや、AR ガイドとは異なる、音声による街めぐりは、今後の企画に大いに参考になった。2024 年度も企画を継続し、今年度話し合ったことに関して具体化していく予定である。

2 令和 5 年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

3 ホームページアドレス等

<https://popular.ynu.ac.jp/>

4 主要連携先

- 常盤台地区社会福祉協議会
- 常盤台地区連合町内会

子どもの成育環境デザイン

事業の総括責任者 ● 田中 稲子 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 泉 真由子 教育学研究科
- 橘高 佳恵 教育学部
- 松橋 圭子 東京都市大学人間科学部
- 船場ひさお 駿河台大学メディア情報学部
- 片岡 寛子 電気通信大学男女共同参画・ダイバーシティ戦略推進室
- 野口 紗生 一社こどものための音環境デザイン
- 小西 恵 一社 園 Power
- 村上 和子 一社 園 Power
- 伊藤 弓子 社会福祉法人あおい会・理事長
- 大竹みどり 杜ちゃいんど園・園長

1 令和 5 年度の活動内容

各分担者が実践する各地域の保育施設や療育施設における換気および音環境の課題解決に向けた実践的研究や取組について情報共有するとともに、勉強会や施設見学を行い子どもの成育空間の在り方について議論を深めた。そのほか下記 2 に示す通り、学会発表やセミナーや雑誌等の企画を通して社会還元した。また、2023 年 12 月 26 日に子どもの成育環境デザインオンラインセミナーを開催して、2020 年からの換気不足の問題解消に向けた実践的活動について報告の場を設け、後日配信のかたちで横浜市内の保育関係者に成果還元を行った。

2 令和 5 年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒

②昨年度、コンタクトポイント（国土交通省）を通じて提出した「保育施設における排煙窓の日常換気利用促進について」の質問状に対して 2023 年 6 月 27 日に回答があり、「令和 4 年度

『建築物の防火避難規定の解説 2016(第2版)』アフターフォロー質問と回答」(<http://www.jcba-net.jp/books/boukahinanqa20230530.pdf>)において、排煙窓の日常的な換気利用に問題がないことが確認された。

- ③ -1 上記②に基づき、第1回子どもの成育環境デザインセミナーを開催した(<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/news/000257.html>)。
- ③ -2 東京都大田区の社会福祉法人職員向け研修会にて本成果を還元する形で保育と環境について講演した(船場・片岡)。
- ⑦ -1 保育雑誌「園と家庭を結ぶ げ・ん・き」(エイデル研究所)に本成果を還元する形で「子どもと音環境」を連載中(船場・野口、田中、松橋、片岡)。
- ⑦ -2 学会発表9件(うち2件査読有り、下記参照)。

＜関連資料＞

- ・種市 慎也, 田中 稲子, 宮島 光希, 松橋 圭子: 中間期の換気行為に着目した都市部の保育施設における換気に関する研究, 日本建築学会環境系論文集, 88巻 806号 pp. 288-299, 2023.4 (査読有り)
- ・胡怡賢, 種市 慎也, 大西達也, 田中稲子: ワンルーム型の保育施設を対象とした保育者の歌唱時における COVID-19 の感染確率と換気量の関係, 第31回 日本臨床環境医学会学術集会, 2023.6
- ・小西恵, 種市 慎也, 田中稲子: 複合型保育施設における換気量改善のための開口部改修工事に関わる課題整理と効果検証, こども環境学研究, p.87, 2023.7
- ・大西達也, 種市 慎也, 胡怡賢, 田中稲子: ワンルーム型保育施設の室内空気環境と家具配置に関する気流解析, こども環境学研究, p.88, 2023.7
- ・種市 慎也, 胡怡賢, 大西達也, 田中稲子: コロナ禍の夏季における保育施設の空気環境及び保育者の換気行為の変化, こども環境学研究, p.83, 2023.7
- ・種市 慎也, 胡怡賢, 大西達也, 田中稲子: 横浜市の保育施設における夏季の室内空気環境と幼児・保育者の生理反応に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 環境工学Ⅱ, pp.629-630, 2023.9
- ・大西達也, 種市 慎也, 胡怡賢, 田中稲子: コロナ禍の夏季のワンルーム型保育施設における居住域の温熱・空気環境の実態, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 環境工学Ⅱ, pp.1059-1060, 2023.9
- ・胡怡賢, 種市 慎也, 大西達也, 田中稲子: ワンルーム型保育施設の気流解析による COVID-19 の感染確率に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 環境工学Ⅱ, pp.1465-1466, 2023.9
- ・Hiroko Kataoka, Yuki Yoshitomi, Haruto Hirai, Masayuki Takada: An awareness survey on childcare facilities and acoustic environment in Japan's residential areas, JASA Express Letters 4(2) 2024.2 (査読有り)

3 ホームページアドレス等

- 地域連携推進機構 HP 内:

<https://www.chiiki.ynu.ac.jp/nexturbanlab/000128.html>

4 主要連携先

- 社会福祉法人あおい会をはじめ横浜市内を中心とする保育施設 (非公開)

UNIT
15

新音響文化研究会

事業の総括責任者 ● 中川 克志 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
学外協力者 ● 樽沼 範久 都市イノベーション研究院
● 平倉 圭 都市イノベーション研究院
● 須川亜紀子 都市イノベーション研究院

1 令和5年度の活動内容

本年度は

- ・2024年度予定の横浜国立大学の野音をテーマとする展覧会準備
- ：横浜在住のアーティスト西原尚さんと MTG、PA 機器の購入、展覧会に協力可能なアーティスト調査（関西出張と梅田哲也作品調査）
- ・担当授業「音響文化論演習」の一環として、学生による野音のサウンドウォーク作品の制作(2023年度末までに何らかの形で公開予定)

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

(羽沢エリアというよりも) 横浜国立大学構内（野音）を
主題とする活動を行った。

成果物は、学生が制作したサウンドウォーク作品である。
(2023年度末までに何らかの形で公開予定)

3 | ホームページアドレス等

<https://sites.google.com/view/soundstudies/> ホーム

4 | 主要連携先

なし

UNIT
16

郊外居住のクリエイティビティと サステナビリティ

事業の総括責任者 ● 藤岡 泰寛 (A・B) 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
学外協力者

- 野原 卓 (A・B) 都市イノベーション研究院
- 田中 稲子 (A・B) 都市イノベーション研究院
- 吉田 聡 (B) 都市イノベーション研究院
- 大原 一興 (A) 都市イノベーション研究院
- 西田 司 (A・B) オンデザイン
- 熊谷 玄 (A) スタジオゲンクマガイ
- 浅岡 淳太 (B) 相鉄 HD
- 遠藤 美穂 (B) 相鉄ビルマネジメント

1 令和5年度の活動内容

郊外は都市部に比べると経年経過により近隣関係の成熟がみられるが、外部に対して閉ざされがちでコミュニティの多様性に乏しく、高齢化・単身化・空き家化などの課題への新しい対策、多様な主体の連携による再生・再編手法の構築が求められている。

本ユニットはそれまで個別に取り組まれていた関連テーマを統合して2018年度に発足した。「団地」と「戸建て住宅地」の空間的違いにも留意しながら共通課題に着目し、一般的手法として提示することを目的として活動と研究に取り組んできた。

令和5年度の活動内容は以下の通りである。

「団地」では、まず、「夏の涼しい住まい講座」を本学の薩本弥生教授（家政学、被服環境学）の協力も得て地域の小学校高学年児童向けにアレンジし企画した（諸々の事情により実施は2024年度）。これは、団地が同じような間取り・建築的条件であることから、団地で暮らす子どもたちを中心に多世代への学びの広がりを目指したものであった。

さらに、本学の島圭介教授（リハビリテーション科学）の協力を得て、地域の保健活動推進員の方向けに立位機能検査の体験会を開催した。以上の内容は、すべて左近山地域ケアプラザとの連携事業として実施されたものであり、立位機能検査については、今後市沢地区においてさらに老人会と連携して実施されることとなっており地域への展開が期待される。

「戸建て住宅地」では、引き続き継続的な活動のあり方検討および、今後の暮らし方・街づくりに関する検討を進めた。（いずみ野線沿線住宅地）。また、湘南・横浜西部エリアとして、今泉台住宅地においては地域住民の協力を得て引き続き空き家・空き部屋活用策の検討を進めた。また、今泉台・庄戸住宅地においてコロナ禍の状況や経年変化を捉える調査結果をもとに高齢者のフレイルに着目した高齢者の健康と環境との関係に関する研究を進めた。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

<「団地」における活動と研究（A）>

小冊子『住まいの知恵袋』を活用し、左近山地域ケアプラザと連携して2023年7月29日に「夏休みこども体験教室 クイズスタンプラリーで楽しく学ぶ！夏の暑さのヒミツ知りたくない？」を企画した（諸々の事情により実施は2024年度に延期）。

また、旭区左近山地域ケアプラザにおいて、市沢地区および左近山地区の保健活動推進員の方々を対象に、2023年9月21日（木）に立位機能検査の体験会を開催した。

左近山地域ケアプラザとの連携事業として開催した今回の体験会は、本学環境情報研究院の島圭介准教授らが開発した世界初の技術（ヒトがカーテンや紙などに指先で軽く触れていると安定して立てたり、転倒しにくくなったりする現象（ライトタッチ現象）に着目し、この現象を再現する装置を用いて転倒リスクを「立位年齢」として見える化する技術）を、地域においてどのように活用できそうか意見交換を行うことを目的に開催された。体験会では、地域課題実習「転倒しない街共創ラボ「こらぼ」」とも連携し、修士1年の小川康太さん、学部1年の丹羽里歩子さんが参加し、活動の目標や装置の特徴などについて説明を行ったのちに実際に一人ずつ立位年齢を測定した。2024年3月15日には、市沢地区老人会向けに測定会を実施予定である。

2022年7月からは、旭区内の県営笹山団地においても学生入居が始まっており、2023年12月3日に開催された笹山団地自治会主催の餅つき会に参加し住民ヒアリングなどの基礎的な調査を行った。また、入居学生会合に参加し、学生入居が先行して進んでいる左近山団地入居学生との学生間交流を行った。

<「戸建て住宅地」における活動と研究（B）>

相鉄いずみ野線沿線住宅地では、これまで、公×民×学連携による地域活動拠点「みなまきラボ」における地域の創造的で持続的な交流活動促進を試みてきたが（みなまきラボ運営委員会）、これまでのラボ活動の実施加えて、関係主体で継続的な運営を実施するにあたってのディスカッションを行ったとともに、住宅地内に形成された商店街の空き店舗における社会実験等を行った。鎌倉今泉台住宅地では、空き家・空き部屋活用策の検討を経て、空き家所有者に意向調査をおこない、実際に部屋の片付け手伝い等を経て「まち部屋」の提案を行った。また、地域住民による空き店舗活用の魚屋設立に協力、設計と開設イベントの実施を支援した。

<関連資料>

本研究テーマに関連する科研費補助を受けて、活動と研究の両面からプロジェクトを進めた。教育への貢献として、各研究分野において博士研究や卒業研究に結びついた点が挙げられる。異世代シェア型地域居住モデル構築を通じた郊外住宅地の介護予防力向上に関する研究（基盤研

究（C）2019～2023年度、研究代表者：藤岡泰寛）

高齢化の進む公営住宅団地における学生入居事業への期待に関する研究、2023年度卒業論文（卯川遍）

丘陵郊外住宅地における高齢者の健康と環境との関係に関する研究－高齢者のフレイルに着目して－、2023年度博士論文（吉田直子）

また、地域課題実習「NEW-NEWTOWN プロジェクト」・「ハマの屋台プロジェクト」・「転倒しない街共創ラボ「こらぼ」」との連携も積極的に行い、公×民×学連携を進めた。

3 ホームページアドレス等

<https://danchisumai.wixsite.com/website>（冬の寒さからあなたを守るすまいの“知恵袋”）

4 主要連携先

- | | |
|---------------|------------|
| ●地域ケアプラザ | ●各種高齢者施設 |
| ●社会福祉協議会 | ●UR 都市機構 |
| ●供給公社 | ●鉄道事業者、区役所 |
| ●自治会・町内会 | ●民間企業 |
| ●首都大学東京小泉研究室 | ●設計事務所 |
| ●民間企業 | ●横浜市建築局 |
| ●横浜市温暖化対策統括本部 | ●神奈川県 |

UNIT

17

プラネタリー・ヘルスユニット

事業の総括責任者

● 藤掛 洋子 都市イノベーション研究院

事業の分担者・
学外協力者

● 勝地 弘 都市イノベーション研究院
● 比嘉 紘士 都市イノベーション研究院
● 長谷川秀樹 都市イノベーション研究院
● 石川 正弘 環境情報研究院
● 堀内かおる 教育学部
● 杉山久仁子 教育学部
● 池島 祥文 国際社会科学研究院
● 佐土原 聡 横浜国立大学名誉教授
● 渋谷 祥子 横浜国立大学名誉教授
● 君塚 強 神奈川県

1 令和5年度の活動内容

本ユニットは、神奈川県笹山団地・羽沢横浜国大駅周辺を対象とし、プラネタリー・ヘルス（PH：人と地球の健康をともに実現しようとする考え方）の概念を援用し、子ども、高齢者、外国につながる方々、大学生が地域で豊かに暮らす方策を検討してきた。南米パラグアイにおいてもPHの概念を用い、アグリツーリズムを展開しており、そこでの学びも応用し、笹山団地等で地域との連携を行ってきた。2023年度の活動は大きく分けると以下になる。

- ① 笹山団地他においてプラネタリー・ヘルス・ダイエット（PHD）の考え方を参考に、フードロス減らすため、民間企業と連携し、地域課題実習において子ども食堂の運営。
- ② PHD プレート（レシピ）の教育学部学生による考案。
- ③ プラネタリー・ヘルスの世界の潮流を理解するために研究会の開催（4回）
- ④ プラネタリー・ヘルスの概念を用い、パラグアイ農村部でのアグリツーリズムの展開、地場産業の活用による給食の展開などについて学会において報告した。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

3 | ホームページアドレス等

- 笹山団地で実施している子ども食堂について
facebook 笹山えんぴつルーム 【横浜国立大学課題実習×ミタイ基金】
- 横浜ケーブルテレビ放送
Youtube YCV 公式チャンネル 【PickUP・特集】 笹山団地で国大生が学びと食を支援「えんぴつルーム」 2024 年 1 月 16 日放送
- 「広報よこはま ほどがや区版 9 月号」
https://www.city.yokohama.lg.jp/hodogaya/kusei/koho/koho_hodogaya/r5/2309.files/0005_20230913.pdf
- 地域課題実習動画
<https://www.youtube.com/watch?v=DLyJieXKZFc>
- 横浜国立大学 XJICA 草の根技術協力事業：パラグアイ共和国複合的農村開発プロジェクト～アグリツーリズムの展開に向けて～
<https://paraguay-mujer.com/>

4 | 主要連携先

- 神奈川県県土整備局建築住宅部
- 横浜市保土ケ谷区社会福祉協議会
- 笹山自治会
- 笹山地区社会協議会
- (株) ジャンボリア
- NPO 法人ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金他
- 横浜国立大学 XJICA 草の根技術協力事業「パラグアイ共和国複合的農村開発：アグリツーリズムの展開に向けて」プロジェクト

UNIT
18

みなとみらい21地区における 脱炭素まちづくり

事業の総括責任者

● 吉田 聡 都市イノベーション研究院准教授

事業の分担者・
学外協力者

● 稲垣 景子 都市イノベーション研究院准教授
● 田中 稲子 都市イノベーション研究院教授
● 佐土原 聡 横浜国立大学名誉教授
都市環境エネルギー協会・専務理事
● 佐藤 茂 みなとみらい21熱供給(株)
● 西田 晃 みなとみらい21熱供給(株)
● 後藤 吉博 みなとみらい21熱供給(株)

1 令和5年度の活動内容

令和5年度は、みなとみらい21(株)とみなとみらい21地区の脱炭素化に向けた課題や適応技術等について、意見交換の場を2回(5月、3月22日(予定))もつとともに、都市イノベーション学府講義「グリーンビルディング・コミュニティ計画論」と連携して、みなとみらい21地区の地域熱供給プラント見学会(参加学生数50名)を開催した。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

①みなとみらい21地区の脱炭素化に向けた課題や適応技術等についての意見交換会を2回開催した。

⑦学生を対象に「みなとみらい21地区地域冷暖房プラント」見学会を開催した。

3 ホームページアドレス等

なし

4 主要連携先

● みなとみらい21熱供給株式会社

UNIT
19

資源循環実践プロジェクト

事業の総括責任者 ● 具 本俊 総合学術高等研究院 リスク共生社会創造センター

事業の分担者・
学外協力者

- 澁谷 忠弘 総合学術高等研究院 リスク共生社会創造センター
- キム ヒョンド 京都大学 工学研究科 高分子化学専攻
- 本田 隆史 WWF ジャパン

1 令和5年度の活動内容

令和5年度は、環境科学と廃棄物管理の専門家との協働により、日本国内の廃棄物処理の現況と直面する課題に対して深い洞察を提供した。具体的には、廃棄物焼却に伴う環境影響、特に有害物質の排出という深刻な問題点に重点を置き、リサイクル技術の可能性を中心に議論が展開された。

プロジェクトの主要な焦点の一つとして、ナノファイバー技術を活用した使い捨てマスクのリサイクル研究が挙げられる。この技術が廃棄物の効果的な再利用及び環境に配慮した新製品開発へどのように貢献可能かが、詳細に分析された。このアプローチは、廃棄物の価値再生と持続可能な製品開発の両方において、大きな潜在力を示唆している。

加えて、地域社会における環境問題への取り組みとして、廃マスク専用回収箱の設置やリサイクルプロセスの最適化などの施策が検討された。これらの改善策が如何にして地域の環境保全に寄与し得るかについて、詳細な分析が行われ、廃棄物管理の新たな方向性を示した。市民の適切な廃棄方法の学習と実践の促進も、このプロセスの重要な一環として強調された。

2 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒

令和5年度の活動から得られた知見は、廃棄物処理の新しいアプローチを提案し、環境保護と社会的価値の向上に対する貢献を目指している。ナノ技術の活用は、リサイクルプロセスのイノ

バージョンだけでなく、持続可能な環境戦略における新たな可能性を開くことを示している。専門家との持続的な連携を通じて、今後も地域及び広範な社会の環境問題解決への貢献が期待される。令和5年度資源循環実践プロジェクトは、環境と資源の持続可能な循環を促進する上で重要な一歩を踏み出した。

3 | ホームページアドレス等

なし

4 | 主要連携先

- 北海道大学
- 信州大学

UNIT
20

イノベーション創出を目指す学生の 地域連携活動のプラットフォーム

事業の総括責任者

● 為近 恵美 地域連携推進機構成長戦略教育研究センター

事業の分担者・ 学外協力者

● 木内 恵子 地域連携推進機構成長戦略教育研究センター
● 望月 雅之 地域連携推進機構成長戦略教育研究センター
● 湯沢 雅人 地域連携推進機構成長戦略教育研究センター
● 小清水 実 先端科学高等研究院
● 盛一 志仁 ソニー株式会社
● 前田俊太郎 (株) Hyper Cube

1 | 令和5年度の活動内容

学生によるイノベーションの創出を目指し、学生を主体とする活動基盤「イノベーションプラットフォーム（略称：i-Plat）」を提供、その運営および学生の活動に対する支援を行った。その根底には、地域や社会の課題を発見し、解決したいという思い、そして解決策の模索と具現化を推し進める体制が必要との考えがある。活動全体の集約と地域との意見交換の場として、かながわ起業家教育推進協議会に参加している。

学生はこれまでの i-Plat における活動と同様、テーマ毎にチームを結成し、それぞれ下記の活動に取り組んだ。

● VR データ設計技術による価値の創出

学部・学府をまたがる学部生・大学院生による連携を主体として、理工系・都市科学系メンバーが各々持ち寄る技術シーズを活かした YNU-VR マップの作成を継続、その利活用シーンを探りながら、VR データ設計技術による価値の創出を目指している。

[活動内容]

- ・ 都市科学部オープンキャンパスにて VR 体験会を開催
- ・ キャンパスマップの充実に向けて学内他部署（入試広報課）と打合せ
- ・ 新規メンバーを発掘するために Unity 勉強会を開催

● 地図アプリを用いた街のリアルタイム情報の発信

人々の生活を豊かにするために不可欠な「移動」のしやすさに繋がるデジタルマップや Web サービスを活用し、そこに地域における価値ある情報の発信機能を実装することで、地域振興やまちづくりに貢献することを目指している。

[活動内容]

- ・ 地域の課題を把握するための現地調査を実施（小田原市 / 葉山町）
- ・ モビリティの動向把握のために研究発表会に参加（日本モビリティ・マネジメント会議 / 土木計画学研究発表会）
- ・ 「デジタル×アナログの良さを活かしたオリジナル・マップによる街づくり」をテーマに「おだわらデジコン城下町（全国学生デジタルまちづくりコンテスト 2023 in ODAWARA）」に応募し、選考過程において小田原市関係者と交流（助言・ディスカッション）→最優秀賞に次ぐ優秀賞を受賞

< 関連資料 >

小田原市広報： <https://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/municipality/digital/council/p36318.html>

●日本の科学力の強化に向けた子供たちの学び&体験の場の創出

「好奇心の種をまく」ことを目的とし、自然の奥深さや生命の尊さを学ぶフィールドワーク、身近に存在する疑問やワクワクするようなテーマでの面白実験など、理科や科学に対する好奇心や興味を広げる活動を通して「楽しい!」や「綺麗だなあ」と理屈を乗り越えて感動する体験を提供している。

[活動内容]

- ・小学生向け面白理科実験教室を開催（NPO 団体「寺子屋」との共催@川崎市立幸町小学校）
- ・夏休みの自由研究プロジェクト（リコチャレ@横浜国立大学）
- ・理科の楽しさを体感するためのお楽しみ実験 SHOW を開催（@こどもサポート南野川）
- ・親子で楽しむ香水づくりイベント（「感覚×香り」の親子イベント@星天クレイ）
- ・活動内容を応用物理学会講演会「教育」のセッションで発表

2 | 令和5年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐

4 | ホームページアドレス等

- YNU-VR プロジェクト： <https://ynumap.vercel.app/>
- 横浜市スタートアップ社会実装推進事業： <https://yoxo-o.jp/su-jisso/>
- 学び×横浜未来メタバースプロジェクト： <https://www.swap-technology.com/yokometa>
- Y's navi： <https://map.alt-cois.com/ynu/index.html>
- CurioSeeds： <https://sites.google.com/view/curioseeds/home>

5 | 主要連携先

- 応用物理学会： <https://www.jsap.or.jp/>
- ディアベリー株式会社： <https://deerververy.com/>
- 株式会社ぐるり： <https://gururi-lp.com/>
- 横浜未来機構： <https://yoxo-o.jp/>
- 神奈川県（起業家教育）： <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/sr4/kigyouka.html>

UNIT
21

神奈川県西 森里川海みらいプロジェクト

事業の総括責任者 ● 森田 洋 地域連携推進機構成長戦略教育研究センター

事業の分担者・
学外協力者 ● 下出 信次 環境情報研究院（附属臨海環境センター）
● 池島 祥文 国際社会科学研究院
● 水井 涼太 NPO 法人ディスカバーブルー
● 田坂恵理子 一般社団法人 Japan Hunter Girls

1 令和 5 年度の活動内容

今年度の地域連携推進活動として、真鶴にある本学附属臨海環境センターや地域の事業者とともに海洋生物の多様性が高い相模湾における未利用資源を検討すること計画していた。そこで附属臨海環境センター（センター長下出教授）の環境情報研究院助教高山佳樹氏、技術職員木村倫代氏のサポートの下、湯河原町福浦港に属する釣り船に出船を依頼し、実施時期に捕獲可能な深海性の未利用魚シキシマハナダイを釣りその利用可能性について検討した。地域連携に関する教育効果も期待できることから学生も募集し、経済学部生 12 人が参加した。

2 令和 5 年度の活動がもたらした地域への貢献

地域 \ 番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
横浜都心エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
新湘南エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
羽沢エリア	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
県西エリア	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐
その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

3 ホームページアドレス等

臨海環境センター HP：http://www.mmcer.ynu.ac.jp/mmcer/top.html

4 主要連携先

なし



YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University
地域連携推進機構

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5
TEL : 045-339-4455 FAX : 045-339-3057
WWW.chiiki.ynu.ac.jp